

「研修会等名称」

大学コンソーシアム京都

「FDのこれまでと、これから～多様な角度からFDについて考える～」

場所：京都産業大学

期間：2018年3月3～4日

1. 研修の内容

大学コンソーシアム京都の最大のイベントであるFDフォーラムで、700名を超える参加者があったと聞いている。

1日目

シンポジウム「FDのこれまでと、これから～多様な角度からFDについて考える～」

シンポジスト

林剛史（文部科学省 高等教育局大学振興課 課長補佐）

梅本裕（学校法人京都橘学園 理事長）

佐藤浩章（大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授）

森朋子（関西大学 教育推進部 教授）

コーディネーター

西野毅朗（京都橘大学 教育開発支援センター 講師）

・林報告（FDのこれまでと、これから～政策的な観点から～）

平成19年のFDの義務化から問い直して、10年前はまだ規制は緩和の方向であったのが、今は規制が強化されていること、ガバナンス改革の必要性、学長のリーダーシップがますます問われ、外部から見た大学がキーワードであると締めくくられた。

・梅本報告（これからのFDへの期待 体験的FD論）

京都橘学園の理事長である梅本氏の報告は現場の教員としてのキャリアも長い梅本氏が見た大学の授業風景とそれを改革するFD活動の狙い、効果、問題点が具体的な事例で語られて、大変参考になった。

・佐藤報告（未来の大学教員・未来のFD—2030年に大学教員に求められる能力とその開発法の予測—）

愛媛大学で長らくFD活動の中心的役割を果たされ、現在は大阪大学でFD活動の日本の中心的な活躍をされている佐藤氏の報告は大変興味深かった。氏によれば今後の大学教員に求められるタイプには4つあり、今後の大学は1：スーパー講師、2：AL（アクティブラーニング）ファシリテーター、3：社会連携コーディネーター、4：学習コーチ、といった高度な技術を持った集団となることが求められているという。そのためには教員研修（FD研修）も欠かすことができず、大学教員のさらなる自己研鑽が必要なことがよく理解できた。

・森報告（FDのこれまでと、これから—学習研究の視点から—）

教育改革、FD活動で近年注目を浴びている関西大学だが、その中でも中心的に活躍をされている森先生の発表は何度聞いても感銘深いものがある。今後FDに求められるのは、内部質保証システムの構築、学修成果の可視化、FDの実質化、教育のブランディング、担い手としてのFDなどがあり、教育改革で求められていることは、まさしく大学改革に求められていることとイコールであることがよく理解できた。

2日目

第3分科会「リベラルアーツ教育の展望」に参加

報告者

毛利勝利（国際基督教大学 教養学部長）

室田真男（東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院副院長）

白井聡（今日と精華大学人文学部講師）

コーディネーター

大川淳（京都ノートルダム女子大学 人間文化学部講師）

第1報告（毛利勝彦氏）（ICUにおけるリベラルアーツの21世紀的展開）

リベラルアーツに関しては東京大学の教養学部と並ぶ、伝統のある教養学部の取り組みに関する報告であった。ただし、本学とは学部組織などがあまりに違いすぎて、必ずしも参考になる部分が少なかった。

第2報告（室田真男氏）（東京工業大学におけるリベラルアーツ教育の試み）

本学とは全く逆の理系大学である東京工業大学だが、伝統的にリベラルアーツ、人文系教育にも力を入れているそうである。本学にすぐに応用可能な具体例はなかったが、東工大ほどの組織でも学長のリーダーシップの元で、こんなに大胆な取り組みができることが分かったことは収穫であった。

第3報告（白井聡氏）（リベラルアーツ教育は何を目指すのか）

第3報告については、申し訳ないがかなりレベルの低い報告だと言わざるをえない。発表内容に矛盾はあるし、単なる思いつきと社会に対する不平不満を並べたに過ぎない内容で聞くに耐えなかった。残念な発表であった。

2. 研修の成果

とりわけシンポジウムが参考になった。分科会については自分にもっとも身近なテーマを選んだつもりであったが、必ずしも質の高い報告ばかりではなかったし、逆に自分にとってなじみのない分科会を選ぶべきであったと思った。

シンポジウムでは、一貫して、内部質保証、教育あるいはFDの実質化、学長のリーダーシップといった概念がキーワードとして語られていた。FDはややもすると単なる個別の授業改善と捉えられがちだが、それを全学的な取り組みとして位置づけることが求められつつあると感じた。その一つが、新任者に対するFD研修で、すでに多方面において、研究のプロが教育のプロとは限らないことが問題視されている。実務家教員が抱える教育力の問題は本学でも認識されているが、他方において実務家教員を増やすことも求められているので、必然的に教員研修、FD研修に力を入れることも今後考えていく必要がある。FDの実質化とは教育（成果）の可視化にほかならず、もはや単に授業評価アンケートを実施しているだけではFDに関しては時代遅れと言わざるを得ない。本学においても今後、議論を深めていきたい分野の一つである。

3. 授業への研修成果の反映状況

今後の授業運営、大学評議会等で生かしていきたいと思う。